

臓器移植の啓発活動

～行動変容ステージモデルとナッジの観点から～

3年1組25番 宮村歩実

I はじめに

1997年に「臓器移植法」が施行されたことにより、脳死下の臓器提供が可能になった。以降、日本臓器移植ネットワーク、厚生労働省をはじめとして、様々な機関が臓器移植に関する啓発活動を行っている。また、ほとんどの国民は、保険証や運転免許証、マイナンバーカードの裏面など、簡単に意思表示ができる手段を持っている。しかし、内閣府の世論調査で、臓器提供の意思表示について「既に意思表示をしている」と答えた人は6.7%である¹。様々な啓発活動を行い、国民が意思表示の手段を持っているにもかかわらず、その成果が見られないということは、啓発活動の行い方や内容に問題があるといえる。そこで本論文では、日本の臓器移植啓発活動の抱える問題点について考察する。始めに啓発活動の分析、考察に用いる行動変容ステージモデルとナッジについて説明する(II章)。次に行動変容ステージモデルを用いて、臓器移植啓発活動を分析する(III章)。III章で示した問題点を、ナッジの観点から考察する(IV章)。最後に考察を基に、今後の臓器移植啓発活動について検討する(V章)。

II 行動変容ステージモデルとナッジ

行動変容ステージモデルとは、禁煙の研究から導き出されたモデルであり、人が行動変容を起こす過程を示す。「無関心期→関心期→準備期→実行期→維持期」(図1)の5段階に分けられる²。このモデルは食事や運動など、様々な健康に関する意識改革の場で活用されている。

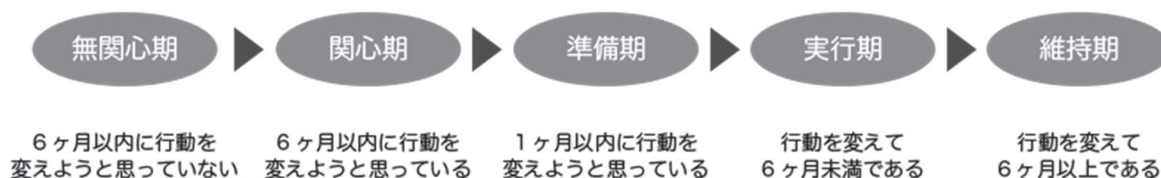


図1 行動変容ステージモデル

出典)厚生労働省 (2019) 「行動変容ステージモデル」

<https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/exercise/s-07-001.html>

厚生労働省は行動変容ステージモデルについて、「行動変容のステージを一つでも先に進むには、その人が今どのステージにいるかを把握し、それぞれのステージに合わせた働きかけが必要になります。」³と述べている。よって、臓器移植啓発活動においても、それぞれのステージに合わせた働きかけが必要であると考えられる。

ナッジとは、2017年にシカゴ大学経営大学院教授のリチャード・セイラーが、ノーベル経済学賞を受賞したことにより注目された理論で、行動科学の知見を活用した、人々が自分自身にとってより良い選択を自発的に取れるように手助けする政策手法のことである⁴。ナッジ(nudge)とは、「注意や合図のために人の横腹を特にひじで優しく押したり、軽く突いたりすること」とい

¹ 内閣府 (2021) 「1.臓器移植・臓器提供への関心について」
<https://survey.gov-online.go.jp/r03/r03-ishoku/2-1.html> 2022年11月12日閲覧

² 厚生労働省 (2019) 「行動変容ステージモデル」
<https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/exercise/s-07-001.html> 2022年11月12日閲覧

³ 2に同じ

⁴ 環境省 (2019) 「日本版ナッジ・ユニットBEST」
<https://www.env.go.jp/earth/ondanka/nudge.html> 2022年11月12日閲覧

う原義を持つ⁵。リチャード・セイラーとハーバード大学法科大学院教授のキャス・サンスティーンは、ナッジについてこう定義している。

われわれの言う「ナッジ」は、選択を禁じることも、経済的なインセンティブを大きく変えることもなく、人々の行動を予測可能な形で変える選択アーキテクチャーのある要素を意味する。⁶

つまりナッジとは、選択の自由を残しつつ、自発的な意思決定を促すということを意味する。よって、このナッジの理論を活用することで、臓器提供に関する意思決定を自発的に促すことができると考えられる。

行動変容ステージモデルは行動変容の過程を可視化する手段であり、ナッジは行動変容を自発的に促す手段である。そこで本論文では、行動変容ステージモデルの観点から、臓器移植啓発活動を分析して問題点を示し、ナッジの観点からその問題点を考察する。

Ⅲ 行動変容ステージモデルを用いた臓器移植啓発活動の分析

(1) 行動変容ステージモデルを用いた分析グラフの作成

臓器提供意思表示をするまでには、数々の段階を踏まなければならない。その段階を可視化するために、臓器提供意思表示の行動変容ステージモデルを作成した。前章で述べた行動変容ステージモデルの理論と、内閣府の世論調査⁷の回答を用いて、図2を作成した。

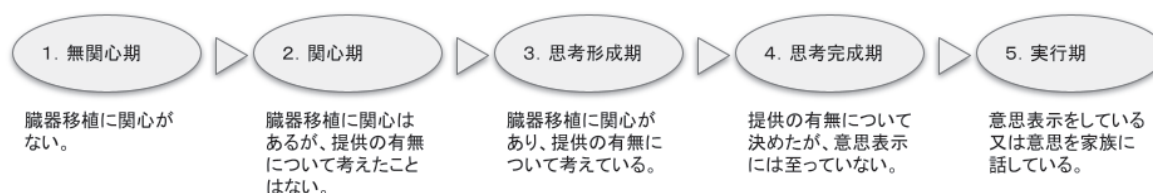


図2 臓器提供意思表示の行動変容ステージモデル

本来の行動変容ステージモデルの「準備期」「実行期」「維持期」を、臓器提供意思表示の過程に合わせて、それぞれ「思考形成期」「思考完成期」「実行期」とした。

これらの段階を踏むことで、臓器移植に無関心な状態から、意思表示をするところまで、行動を変容することができる。

⁵ リチャード・セイラー、キャス・サンスティーン/遠藤真美訳 (2009) 『実践行動経済学』 日経BP社 p.2

⁶ セイラー、サンスティーン 前掲書 p.17

⁷ 1に同じ

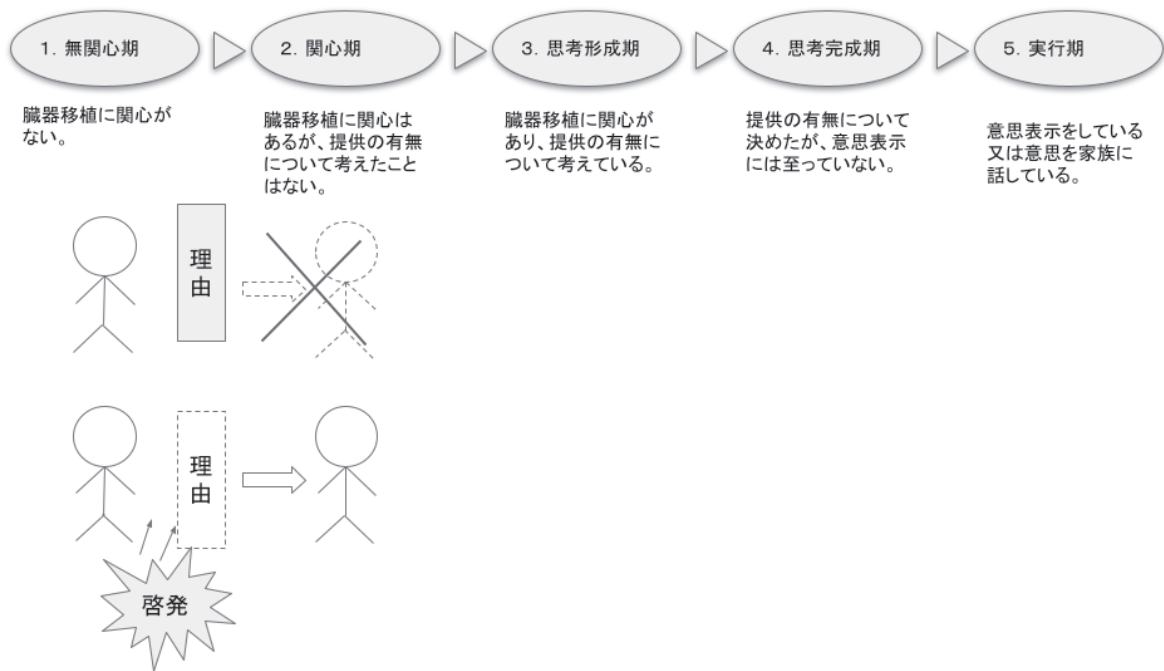


図3 啓発の役割

図3のように、各ステージでとどまっている人は、次のステージに移行できない様々な理由を抱えている。啓発によってその問題を解決することにより、次のステージへの移行を促すことができる。

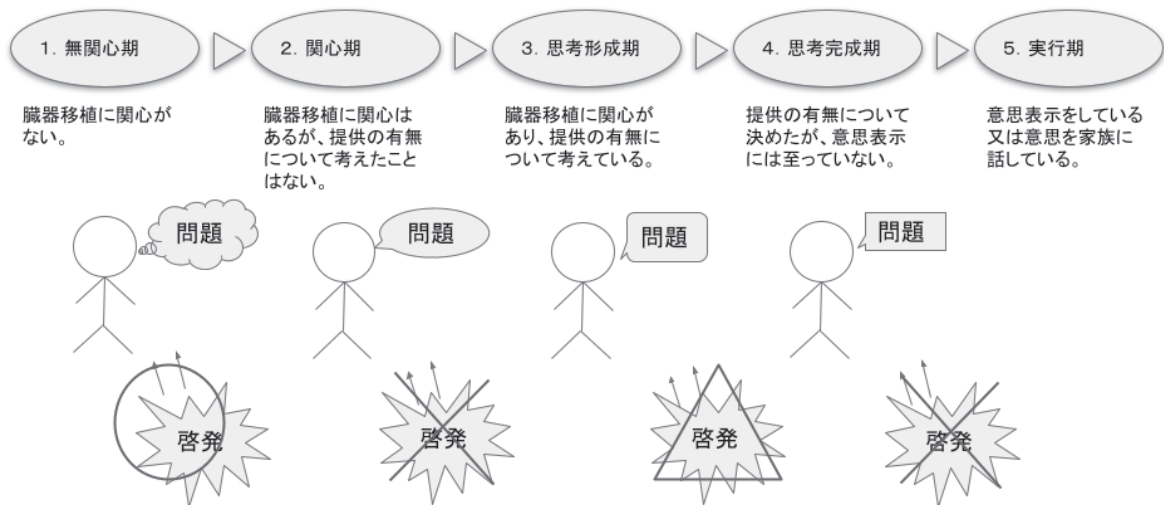


図4 啓発のステージごとの効果の違い

しかし、図4のように、とどまっているステージによって、抱えている問題は異なる。そのため、同じ啓発を行っても、ステージごとにその効果は異なる。

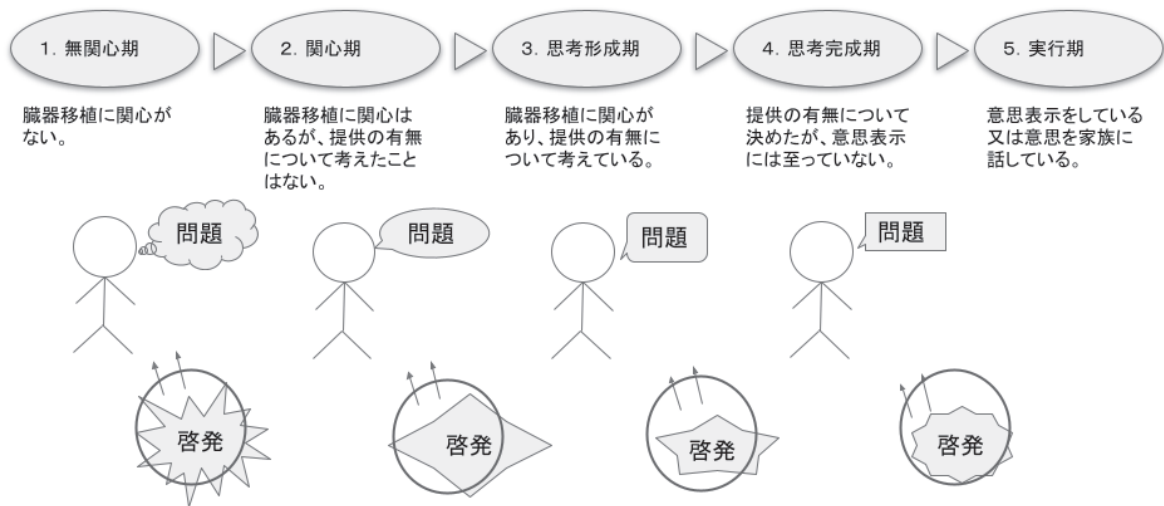


図5 ステージごとの効果の高い啓発

そこで図5のように、ステージごとに効果の高い啓発を組み合わせると、無関心期から実行期まで行動変容を促すことができる。図4と図5で示したことをグラフに表すと、図6になる。

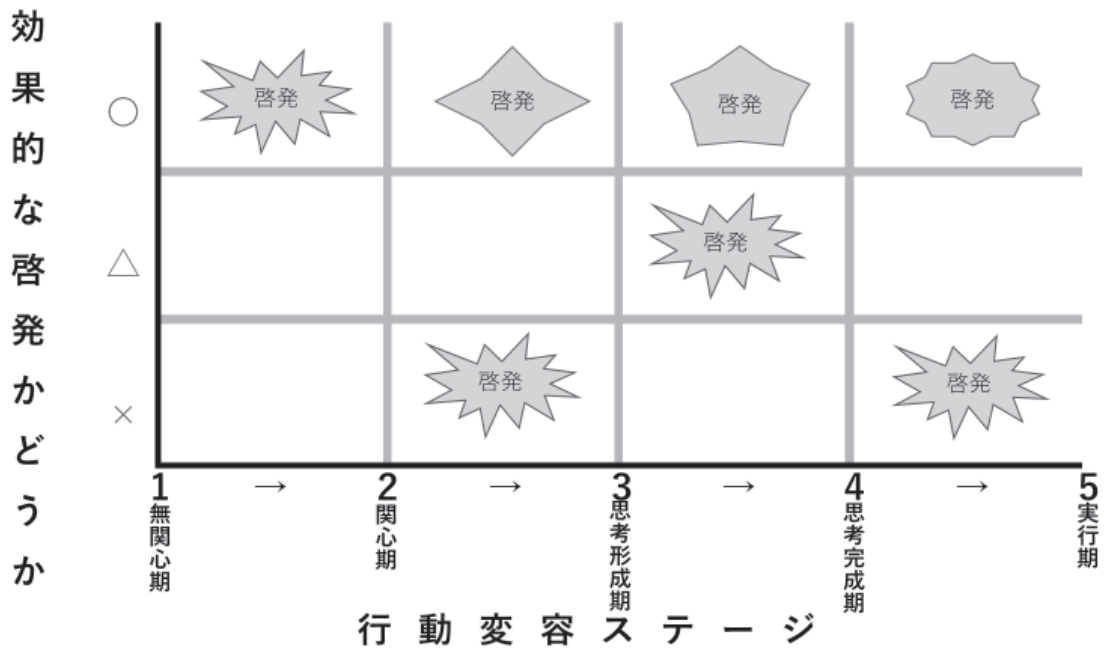


図6 各ステージにおける啓発効果の分析グラフ

図6のグラフにおいて、縦軸は効果的な啓発かどうかを表し、横軸は行動変容のステージを表す。このグラフのように、様々な啓発を組み合わせることにより、無関心期から実行期にかけての行動変容を促すことができる。

しかし意思表示をしている実行期にいる人は、I章でも述べた通り、6.7%ととても少ない。よって現在の啓発活動は、図6のような効果の高い啓発の組み合わせができていないと仮定できる。

(2) 臓器移植啓発活動のステージごとの行動変容促進度の測定

本節では、図6のグラフに実際の啓発活動をあてはめ、どのステージの啓発活動に問題があるのかを分析する。図6のグラフを埋めるために、現在の啓発活動の、ステージごとの効果を評価する必要がある。「効果的な啓発かどうか」は、「次のステージへの行動変容を促すことができる啓発かどうか」と言い換えることができるので、これを以後、行動変容促進度と呼ぶ。

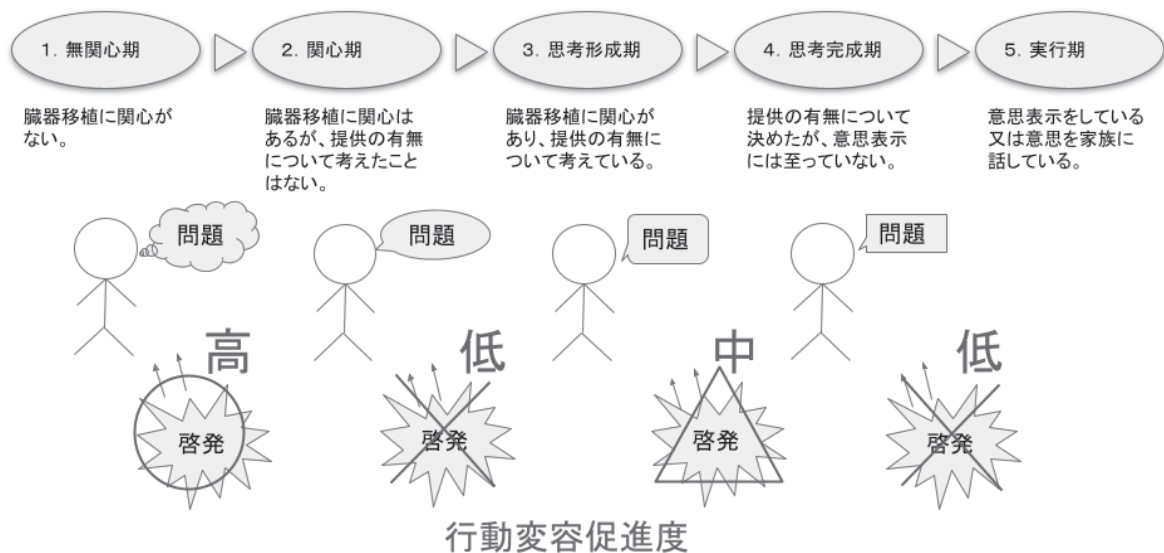


図7 行動変容促進度

図7のように、行動変容促進度の高い啓発は、そのステージにいる人の抱える問題を解決することができる。しかし、とどまっているステージによって、抱えている問題は異なる。行動変容促進度は、抱えている問題を解決できるかどうかの指標であるため、抱えている問題が分からなければ、行動変容促進度を求めることができない。よって、ステージごとに抱えている問題を明確にする必要がある。

各ステージが抱えている問題とは、次のステージに移行できない理由となっている問題である。内閣府では、臓器提供意思表示をしない理由を調査している。その回答に記号をふったものが、図8である。

臓器提供の意思表示について「臓器提供に関心があるが、臓器を提供する・しないは考えていない」、「臓器提供に関心があり、臓器を提供する・しないを考えている」、「臓器を提供する・しないは決めたが、意思表示するまでは考えていない」、「臓器を提供する・しないは決めており、意思表示することを考えている」、「関心がない」と答えた者に、複数回答

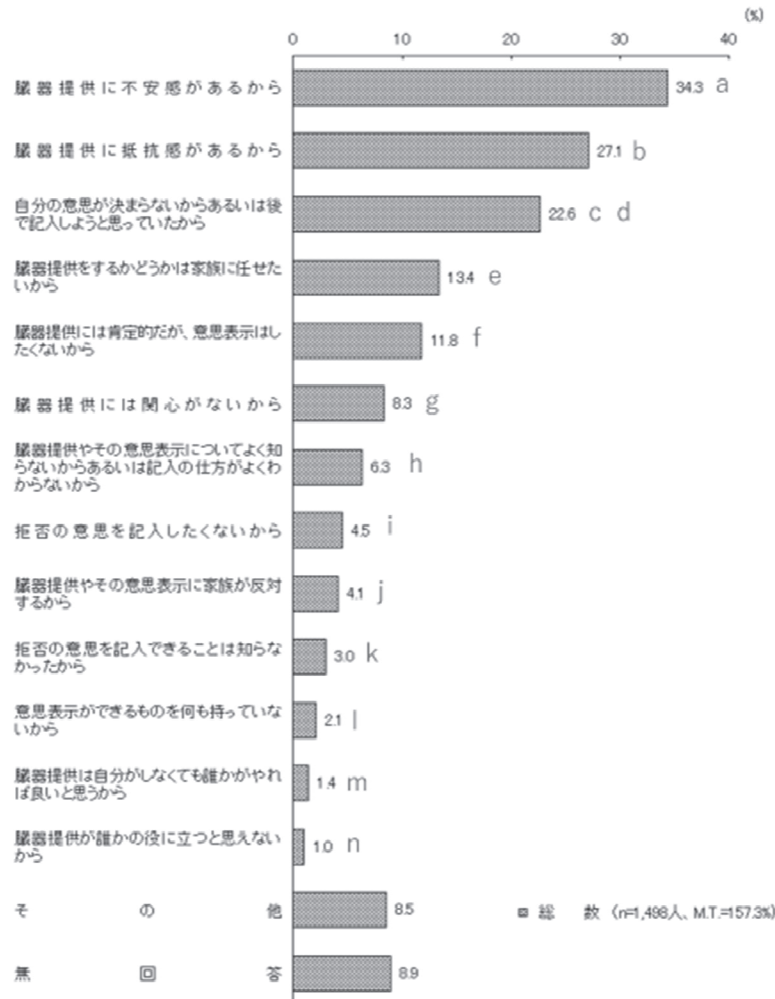


図8 臓器提供の意思表示をしない理由
 出典)内閣府 (2021) 「図5 臓器提供の意思表示をしない理由」(アルファベットは筆者が加筆)
<https://survey.gov-online.go.jp/r03/r03-ishoku/zh/z05.html>

図8をもとに、長い言葉は短く省略し、1つの回答に2つの理由が含まれているものはそれぞれに分け、下記のaからiとした。なお、jはe、kはh、lはd、mはi、nはhに含むことができる理由とみなし、省略する。

- a. 臓器提供に不安感がある
- b. 臓器提供に抵抗感がある
- c. 意思が決まらない
- d. 後で記入しようと思っている
- e. 提供の有無は家族に任せたい
- f. 意思表示をしたくない
- g. 関心がない
- h. よく知らない
- i. 拒否の意思を表示したくない

上記のaからiが、次のステージに移行できない理由である。

啓発の行動変容促進度を出すためには、先述したように、各ステージが抱える問題を明確にする必要がある。よってaからiを、図9のようにステージごとに分類する。

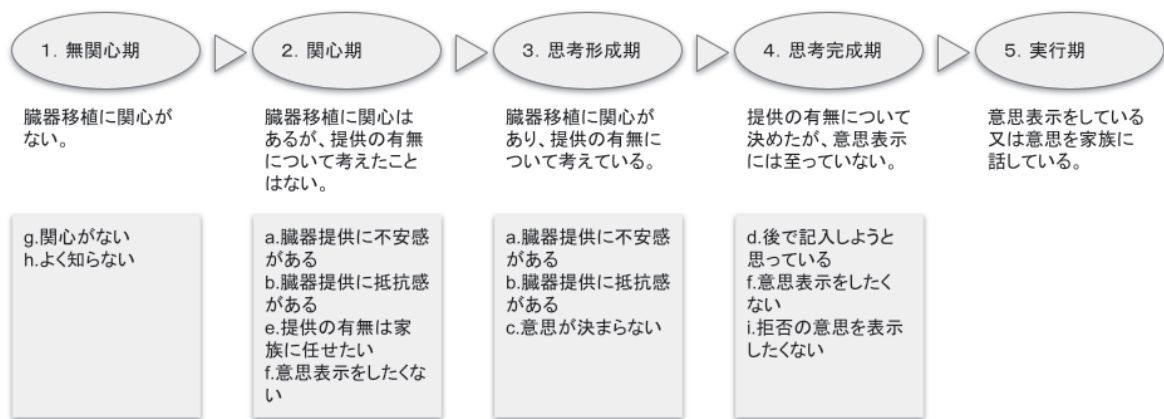


図9 各ステージが抱える問題

図9を用いて、ステージごとの行動変容促進度を図10のように求める。

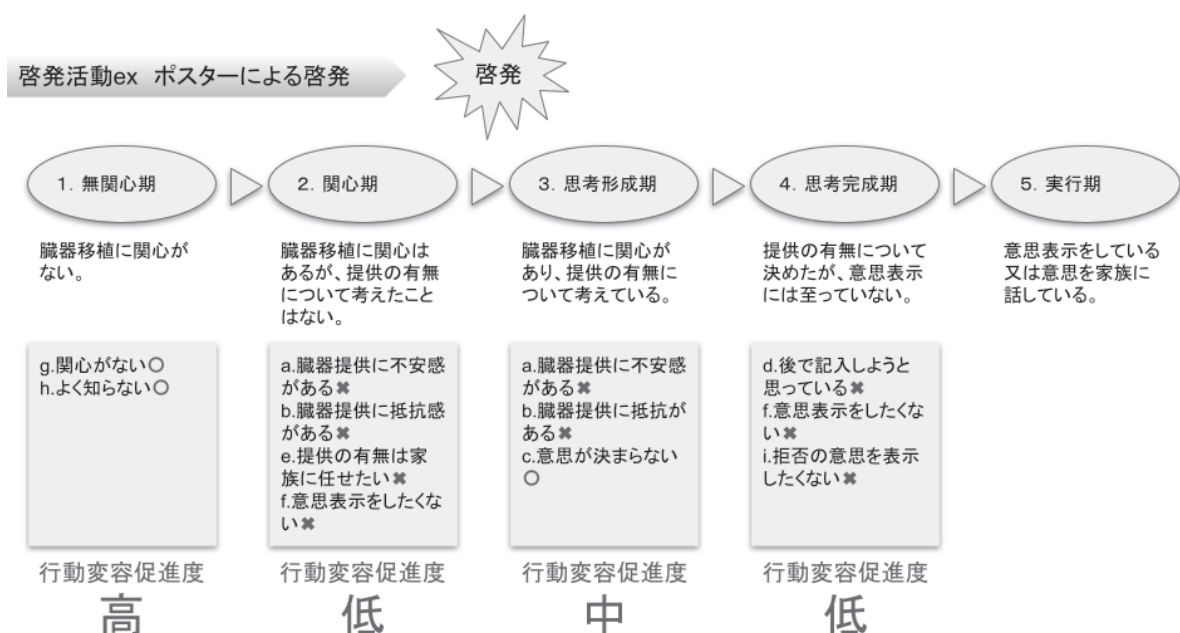


図10 行動変容促進度の求め方

図10では、例として「啓発活動ex ポスターによる啓発」の、ステージごとの行動変容促進度を求めている。aからiの問題を、啓発活動によって解決できていれば「○」とし、解決できていなければ「✳」とした。なお、これは例のため、「○」「✳」の評価に根拠はない。

- 無関心期は、「g.関心がない」「h.よく知らない」の両方が「○」である。よって「ポスターによる啓発」の、無関心期における行動変容促進度は、「高」となる。
- 関心期は、「a.臓器提供に不安感がある」「b.臓器提供に抵抗感がある」「e.提供の意思は家族に任せたい」「f.意思表示をしたくない」の全てが「✳」である。よって「ポスターによる啓発」の、関心期における行動変容促進度は、「低」となる。
- 思考形成期は、「a.臓器提供に不安感がある」「b.臓器提供に抵抗感がある」「c.意思が決まらない」の項目のうち、「○」のもの、「✳」のもの両方がある。よって「ポスターによる啓発」の、思考形成期における行動変容促進度は、「中」となる。
- 思考完成期は、「d.後で記入しようと思っている」「f.意思表示をしたくない」「i.拒否の意思を表示したくない」の全てが「✳」である。よって「ポスターによる啓発」の、思考完成期における行動変容促進度は、「低」となる。

このようにして行動変容促進度を求めると、図6のグラフを図11のように埋めることができる。

なお、図11で用いるグラフは、図6のグラフの表記を一部変更したものである。

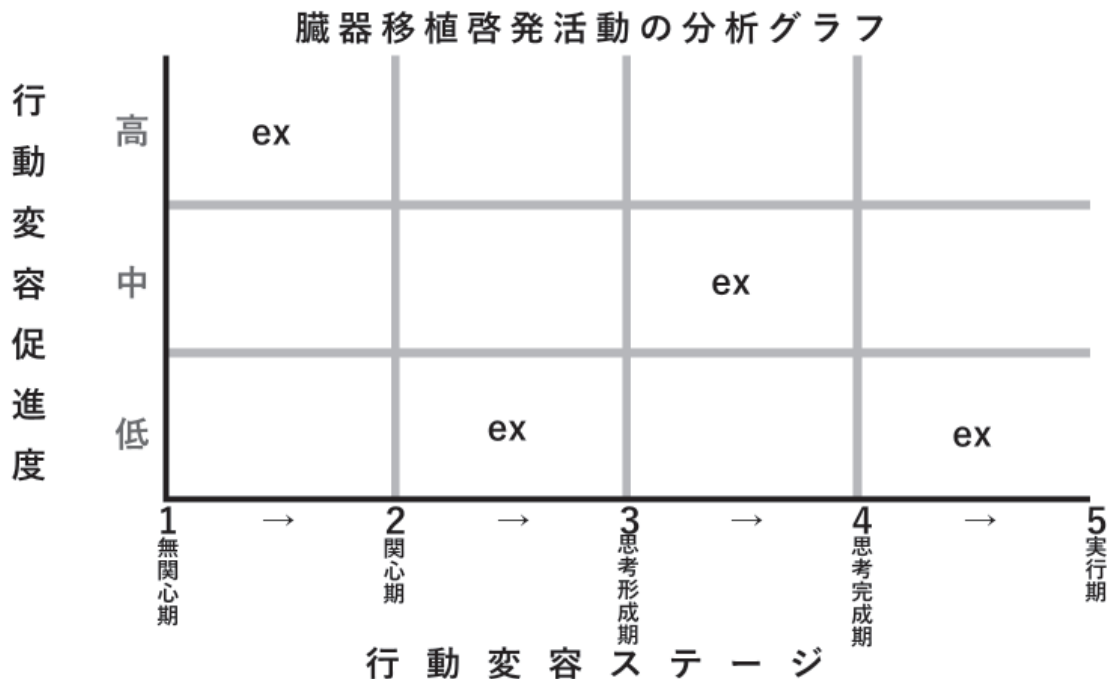


図11 臓器移植啓発活動の分析グラフ

以上の手順で、実際の啓発活動の、各ステージにおける行動変容促進度を求める。行動変容促進度を求める啓発活動は、臓器移植委員会の資料⁸で示された以下のAからLの12項目とする。

- A. テレビ、ラジオ、CMでの広告
- B. ソーシャルメディアを活用した情報発信
- C. 全国のランドマークを臓器移植のシンボルカラーのグリーンにライトアップ
- D. 鉄道駅等公共の場へのポスター掲示
- E. 臓器移植推進国民大会
- F. 健康保険証、運転免許証、マイナンバーカードの裏の記入欄
- G. 意思表示欄の記載を促すリーフレットの配布
- H. 運転免許証更新講習時の動画放映
- I. 小学生向けリーフレットの作成、配布
- J. 中学生向けパンフレットの作成、配布
- K. 学校に講師を派遣する出前授業
- L. 小学生から社会人までを対象としたJOTへの訪問学習

これらの啓発活動の、ステージごとの行動変容促進度を求める際に、図10の例のように、aからiの各問題に対して、「○」「×」の評価をする必要がある。aからiの問題を、啓発活動によって解決できていれば「○」とし、解決できていなければ「×」とするが、その具体的な基準は下記の通りとする。

a. 臓器移植に不安感がある

日本臓器移植ネットワークでは、ドナー家族に、臓器の摘出手術に関して不安に感じたことアンケートをとっている⁹。その中で挙げられている「痛くはないか」「苦しくないか」「提供できるだろうか」「外見の変化はないか」「怖くないか」「寂しくないか」「寒くないか」「手術を乗り越えられるだろうか」の8項目に対して、「痛みはない」など、言及がなされていれば「○」とする。

⁸ 厚生労働省(2021)「第60回厚生科学審議会疾病対策部会臓器移植委員会 資料」
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_24313.html 2022年11月12日閲覧

⁹ 日本臓器移植ネットワーク(2021)「『臓器提供をされた方のご家族に対する調査』の集計結果について(最終集計結果)」
<https://www.jotnw.or.jp/news/detail.php?id=1-781&place=top> 2022年11月12日閲覧

b. 臓器移植に抵抗感がある

明治薬科大学の講師である小松楠緒子は、臓器移植に対する抵抗感の背景には、日本独自の生死観や身体観があると述べている¹⁰。啓発活動で生死観や身体観を変容させるのは難しい。つまりこの問題はここでは解決できないため、評価できない。しかし、抵抗感を持っているということは、「提供したくない」に傾いた意思を持っているということである。「抵抗感があるから意思を表示しない」ではなく、「抵抗感があるから拒否の意思を表示したい」と思わせることで、意思表示に向けて行動変容を促すことができる。よって、後述の「i 拒否の意思を表示したくない」と評価基準を揃える。

c. 意思が決まらない

意思決定のきっかけとなるような言葉があれば「○」とする。

d. 後で記入しようと思っている

今すぐに記入しないということは、すぐには死なないという漠然とした認識がある。よって、「いつ当事者になるかわからない」といった内容があれば「○」とする。また、「いつでも変更可能」という表記があれば、「とりあえず表示してみよう」となると考えられる。よってこの表記があった場合でも「○」とする。

e. 提供の有無は家族に任せたい

内閣府の世論調査によると、本人が臓器提供について何も意思表示をしていなかった場合、家族の臓器提供を決断することに対して、「負担に感じる」と答えた人の割合は85.6%である¹¹。つまり多くの場合家族は、本人の意思表示を望んでいるといえる。よって、「家族は本人の意思表示を望んでいる」や「家族のために意思表示が必要だ」ということが明記されていれば「○」とする。

f. 意思表示をしたくない

意思表示をしたくないということは、「意思表示をしないメリット」が「意思表示をするメリット」を上回っている、または「意思表示をするデメリット」が「意思表示をしないデメリット」を上回っていると考えられる。よってこの構造を逆にするために、意思表示をすることのメリットや、意思表示をしていない際に生じるデメリットについて言及できていれば「○」とする。

g. 関心がない

どの啓発活動も臓器移植について関心を持たせるように行われているので、基本的に「○」とする。例外は個別に説明する。

h. よく知らない

どの啓発活動も臓器移植について何かしら情報を与えているので、基本的に「○」とする。例外は個別に説明する。

i. 拒否の意思を表示したくない

「意思を表示したくない」ではなく、「拒否の意思を表示したくない」ということは、「拒否の意思が望ましくないもの」と認識していると考えられる。よって、「提供しない意思も、提供する意思と同様に重要である」ということが明記されていれば「○」とする。

これらの基準で「○」「×」の評価を行い、図10の例に倣って、ステージごとの行動変容促進度を求める。なお、評価では表を、行動変容促進度の測定では図を示すが、aからi全て「×」の啓発は、表と図を省略する。

A. テレビ、ラジオ、CMでの広告

臓器移植ネットワークが公開している2種類のCM¹²と、2009年の臓器移植法改正後のACジャ

¹⁰ 小松楠緒子 (2005) 「臓器非提供の構造—都内某大学の調査から—」 文教大学総合研究所 『文京学院大学外国語学部文京学院短期大学紀要』(第4号) pp.277-278

¹¹ 内閣府 (2021) 「3.臓器提供に対する意識について」
<https://survey.gov-online.go.jp/r03/r03-ishoku/2-3.html> 2022年11月12日閲覧

¹² YouTube (2015) 「臓器提供意思表示促進CM[15秒]」
<https://www.youtube.com/watch?v=zALOF0XRxRM> 2022年11月5日閲覧
YouTube (2021) 「【運転免許証】「私も、します。」免許証の裏面で臓器提供の意思表示」
<https://www.youtube.com/watch?v=ScUIrgMI34E> 2022年11月5日閲覧

パンの3種類の広告¹³を参考にした。

表1 啓発活動A(テレビ、ラジオ、CMでの広告)の評価

記号	臓器提供の意思表示をしない理由	評価	評価の理由
a	臓器提供に不安感がある	×	
b	臓器提供に抵抗感がある	×	
c	意思が決まらない	×	
d	後で記入しようと思っている	×	
e	提供の有無は家族に任せたい	○	意思表示カードを「手紙」と例えるなど、家族のために意思表示が大切、という内容であった。
f	意思表示をしたくない	×	
g	関心がない	○	
h	よく知らない	○	
i	拒否の意思を表示したくない	×	

啓発活動A テレビ、ラジオ、CMでの広告

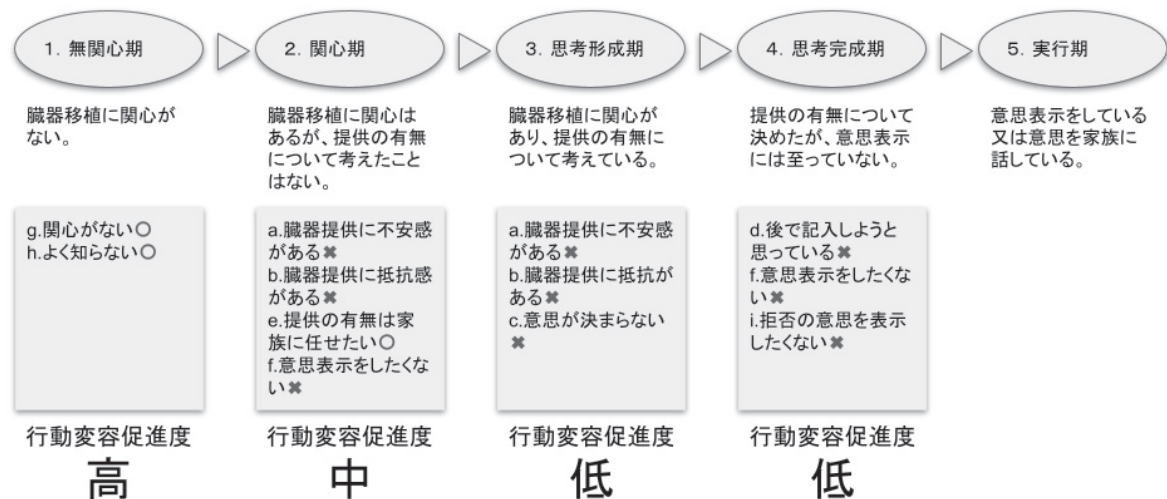


図12 啓発活動A(テレビ、ラジオ、CMでの広告)のステージごとの行動変容促進度

B. ソーシャルメディアを活用した情報発信

aからi全て「×」

YouTube、Facebook等を活用した情報発信と書かれているが、YouTubeの更新率は1ヶ月前に1つ、4ヶ月前に1つ、6ヶ月前に3つと低い。また、36個の動画のうち、再生回数1万回に満たないものが28個と多い¹⁴。Facebookは投稿が1つも無い¹⁵。したがってこの項目は、

¹³ ACジャパン (2013) 「わたしはしてるよ」
<https://www.ad-c.or.jp/campaign/search/index.php?id=649&keyword> 2022年9月25日閲覧

ACジャパン (2014) 「私のヒーローは、ここにあります。」
<https://www.ad-c.or.jp/campaign/search/index.php?id=682&keyword> 2022年9月25日閲覧

ACジャパン (2019) 「最後の手紙」
<https://www.ad-c.or.jp/campaign/search/index.php?id=797&keyword> 2022年11月12日閲覧

¹⁴ YouTube 「公益社団法人 日本臓器移植ネットワークJapan OrganTransplant Network」 <https://www.youtube.com/user/JOTNW/playlists> 2022年9月25日閲覧

¹⁵ Facebook 「公益社団法人 日本臓器移植ネットワーク」
<https://www.facebook.com/JapanOrganTransplantNetwork/> 2022年9月4日閲覧

啓発活動が十分に行えていないと考えられる。

よって行動変容促進度は、全てのステージにおいて「低」。

- C. 全国のランドマークを臓器移植のシンボルカラーのグリーンにライトアップ
aからi全て「×」

ライトアップだけでは、臓器移植について新しい知識や考えは、何も得ることができない。
関心がない人は、ライトアップを臓器移植に関連付けることができない。

よって行動変容促進度は、全てのステージにおいて「低」。

- D. 鉄道駅等公共の場へのポスター掲示

Aと同じACジャパンの3種類の広告¹⁶と、日本臓器移植ネットワークのホームページに記載されている6種類のポスター¹⁷を参考にした。

表2 啓発活動D(鉄道駅等公共の場へのポスター掲示)の評価

記号	臓器提供の意思表示をしない理由	評価	評価の理由
a	臓器提供に不安感がある	○	摘出手術の術跡について、「喉元からおへその下まで傷が一本入りますが、術後は綺麗に縫合し、外からわからないようにします。」と明記されていた。
b	臓器提供に抵抗感がある	○	脳死下での提供を望む欄に丸をつけていないイラストの提示により、意思はNOでもよいことを伝えていた。
c	意思が決まらない	×	
d	後で記入しようと思っている	○	「その意思は、いつでも変えられる。」と表記され、イラストでも示されていた。
e	提供の有無は家族に任せたい	○	意思表示カードを「手紙」と例えるなど、家族のために意思表示が大切、という内容であった。
f	意思表示をしたくない	○	「臓器の提供が少なく毎週8人のいのちが失われているそうだよ。」と、臓器提供意思表示をしていないことから生じる具体的なデメリットが示されていた。
g	関心がない	○	
h	よく知らない	○	
i	拒否の意思を表示したくない	○	bに同じ

啓発活動D 鉄道駅等公共の場へのポスター掲示

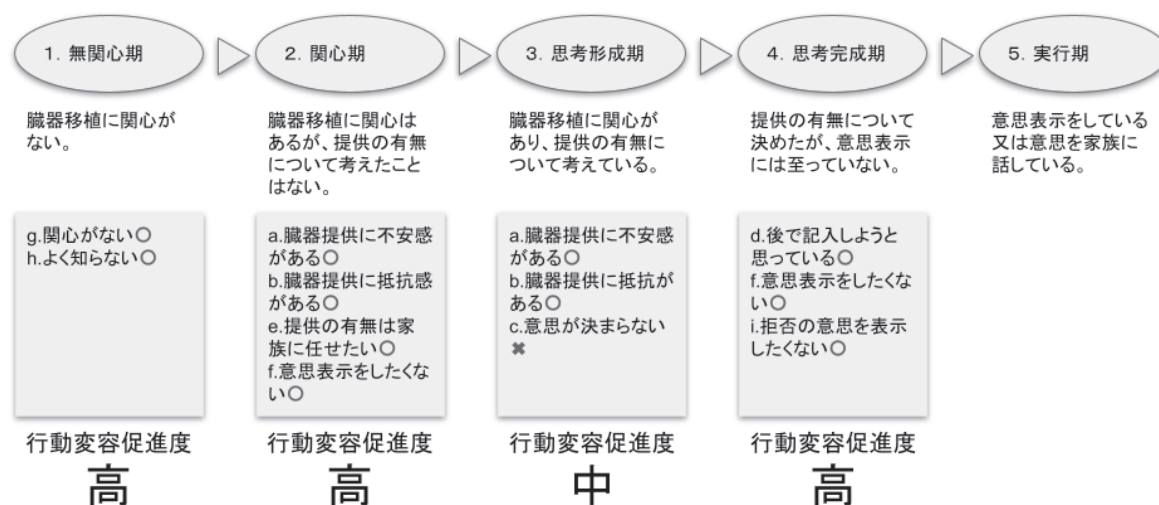


図13 啓発活動D(鉄道駅等公共の場へのポスター掲示)のステージごとの行動変容促進度

¹⁶ 13に同じ

E. 臓器移植推進国民大会

aからi全て「×」

主に関係者の連携強化が目的であるため、国民の臓器提供意思表示と直接的には関係ない。
よって行動変容促進度は、全てのステージにおいて「低」。

F. 健康保険証、運転免許証、マイナンバーカードの裏の記入欄

表3 啓発活動F(健康保険証、運転免許証、マイナンバーカードの裏の記入欄)の評価

記号	臓器提供の意思表示をしない理由	評価	評価の理由
a	臓器提供に不安感がある	×	
b	臓器提供に抵抗感がある	×	
c	意思が決まらない	×	
d	後で記入しようと思っている	×	
e	提供の有無は家族に任せたい	×	
f	意思表示をしたくない	×	
g	関心がない	○	
h	よく知らない	○	
i	拒否の意思を表示したくない	×	

啓発活動F 健康保険証、運転免許証、マイナンバーカードの裏の記入欄

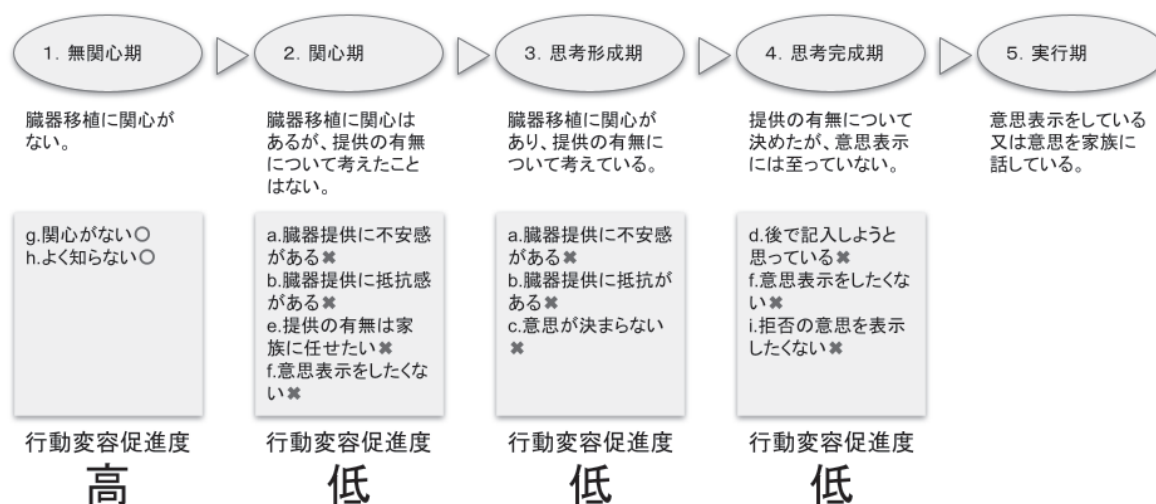


図14 啓発活動F(健康保険証、運転免許証、マイナンバーカードの裏の記入欄)のステージごとの行動変容促進度

¹⁷ 日本臓器移植ネットワーク (2015)「東京メトロ全駅に意思表示促進のポスターが掲示されています！」
<https://www.jotnw.or.jp/news/detail.php?id=1-20> 2022年11月12日閲覧
 日本臓器移植ネットワーク (2016)「東京メトロ全駅に「数字でわかる、臓器提供」ポスターが掲示されています！」
<https://www.jotnw.or.jp/news/detail.php?id=1-68&place=news> 2022年11月12日閲覧
 日本臓器移植ネットワーク (2017)「東京メトロの駅へのポスター掲出について」
<https://www.jotnw.or.jp/news/detail.php?id=1-100> 2022年11月12日閲覧
 日本臓器移植ネットワーク (2022)「東京メトロの駅へのポスター掲示について」
<https://www.jotnw.or.jp/news/detail.php?id=1-904&place=top> 2022年11月12日閲覧
 日本臓器移植ネットワーク「私も、します。臓器提供の意思表示。」
<https://www.jotnw.or.jp/goods/detail.php?id=237> 2022年11月12日閲覧
 日本臓器移植ネットワーク「私も、します。免許証の裏面に意思表示。」
<https://www.jotnw.or.jp/goods/detail.php?id=232> 2022年11月12日閲覧

G. 意思表示欄の記載を促すリーフレットの配布

日本臓器移植ネットワークのホームページで公開されている3種類のリーフレット¹⁸を参考にした。

表4 啓発活動G(意思表示欄の記載を促すリーフレットの配布)の評価

記号	臓器提供の意思表示をしない理由	評価	評価の理由
a	臓器提供に不安感がある	○	「傷口はきれいに縫い合わせて、外から見ても分からないようにします。」と明記されていた。
b	臓器提供に抵抗感がある	○	「提供の意思は、NOでもいい。だから、表示してください。」「提供しない意思でも家族への思いやりに繋がります。」と明記されていた。
c	意思が決まらない	×	
d	後で記入しようと思っている	○	「意思はいつでも、何度でも変更できます。」と明記されていた。
e	提供の有無は家族に任せたい	○	「表示をしていないと、もしもの時に家族が悩んでしまいます。」と明記されていた。
f	意思表示をしたくない	○	「表示をしていないと、もしもの時に家族が悩んでしまいます。」と、意思表示をしないデメリットが明記されていた。
g	関心がない	○	
h	よく知らない	○	
i	拒否の意思を表示したくない	○	bに同じ

啓発活動G 意思表示欄の記載を促すリーフレットの配布

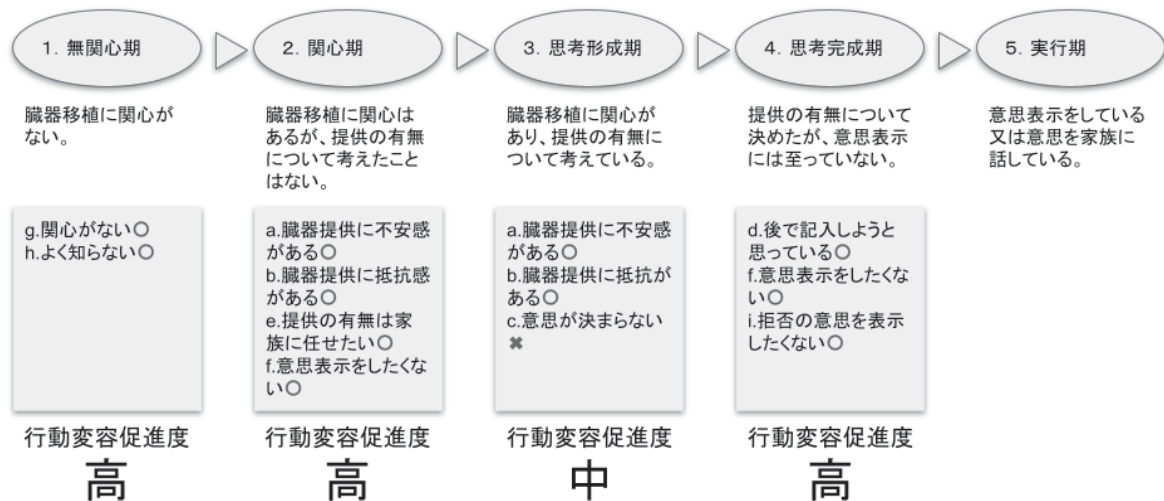


図15 啓発活動G(意思表示欄の記載を促すリーフレットの配布)のステージごとの行動変容促進度

¹⁸ 日本臓器移植ネットワーク 「臓器提供意思表示カード付リーフレット」
<https://www.jotnw.or.jp/goods/detail.php?id=200> 2022年11月12日閲覧
 日本臓器移植ネットワーク 「臓器提供意思表示説明用リーフレット」
<https://www.jotnw.or.jp/goods/detail.php?id=228> 2022年11月12日閲覧
 日本臓器移植ネットワーク 「臓器提供意思表示説明用リーフレット(運転免許証用)」
<https://www.jotnw.or.jp/goods/detail.php?id=231> 2022年11月12日閲覧

H. 運転免許証更新講習時の動画¹⁹放映

表5 啓発活動H(運転免許証更新講習時の動画放映)の評価

記号	臓器提供の意思表示をしない理由	評価	評価の理由
a	臓器提供に不安感がある	×	
b	臓器提供に抵抗感がある	×	
c	意思が決まらない	×	
d	後で記入しようと思っている	×	
e	提供の有無は家族に任せたい	×	
f	意思表示をしたくない	×	
g	関心がない	○	
h	よく知らない	○	
i	拒否の意思を表示したくない	×	

啓発活動H 運転免許証更新講習時の動画放映

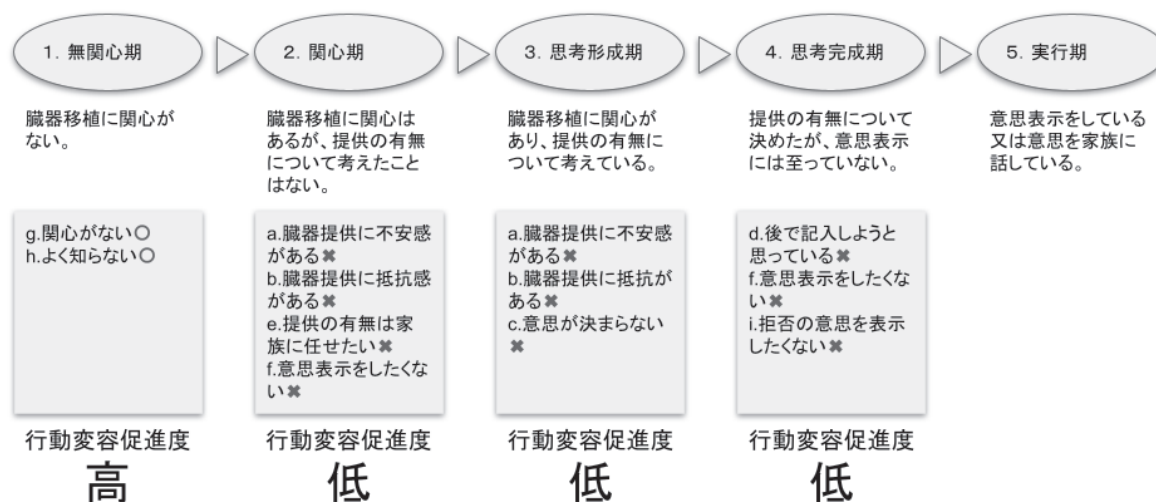


図16 啓発活動H(運転免許証更新講習時の動画放映)のステージごとの行動変容促進度

¹⁹ 日本臓器移植ネットワーク (2021)「映像ライブラリー」
<https://www.jotnw.or.jp/learn/library/gallery/> 2022年11月5日閲覧

I. 小学生向けリーフレット²⁰の作成、配布

表6 啓発活動I(小学生向けリーフレットの作成、配布)の評価

記号	臓器提供の意思表示をしない理由	評価	評価の理由
a	臓器提供に不安感がある	×	
b	臓器提供に抵抗感がある	×	
c	意思が決まらない	×	
d	後で記入しようと思っている	×	
e	提供の有無は家族に任せたい	×	
f	意思表示をしたくない	×	
g	関心がない	○	
h	よく知らない	○	
i	拒否の意思を表示したくない	×	

啓発活動I 小学生向けリーフレットの作成、配布

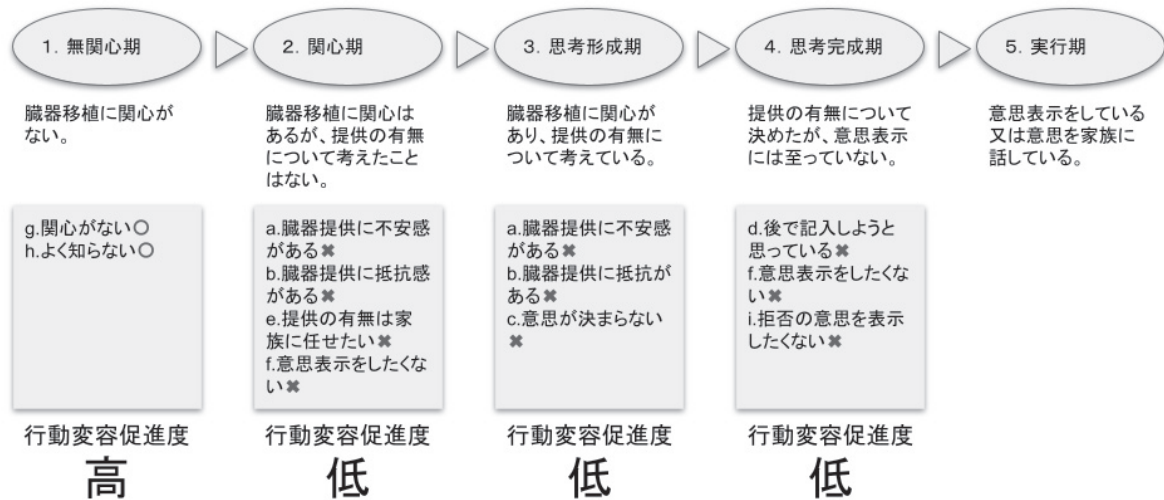


図17 啓発活動I(小学生向けリーフレットの作成、配布)のステージごとの行動変容促進度

²⁰ 日本臓器移植ネットワーク 「教育への取り組み」
<https://www.jotnw.or.jp/forteacher/teacher/> 2022年11月12日閲覧

J. 中学生向けパンフレット²¹の作成、配布

表7 啓発活動J(中学生向けパンフレットの作成、配布)の評価

記号	臓器提供の意思表示をしない理由	評価	評価の理由
a	臓器提供に不安感がある	○	「摘出手術後は速やかに家族の元へ戻ります。」「傷口はきれいに縫い合わせ、清潔なガーゼを当て、外から見てもわからないようにします。」と明記されていた。
b	臓器提供に抵抗感がある	○	臓器移植の4つの権利に関して、「どの考え方も自由に選択でき、尊重されます。」と明記されていた。
c	意思が決まらない	×	
d	後で記入しようと思っている	○	「すべての人がある日突然、脳死になる可能性があります。」「意思はいつでも何度でも変更できます。」と明記されていた。
e	提供の有無は家族に任せたい	○	「家族が迷わないためにも意思を示しておくことが大切です。」と明記されていた。
f	意思表示をしたくない	×	
g	関心がない	○	
h	よく知らない	○	
i	拒否の意思を表示したくない	○	bに同じ

啓発活動J 中学生向けパンフレットの作成、配布

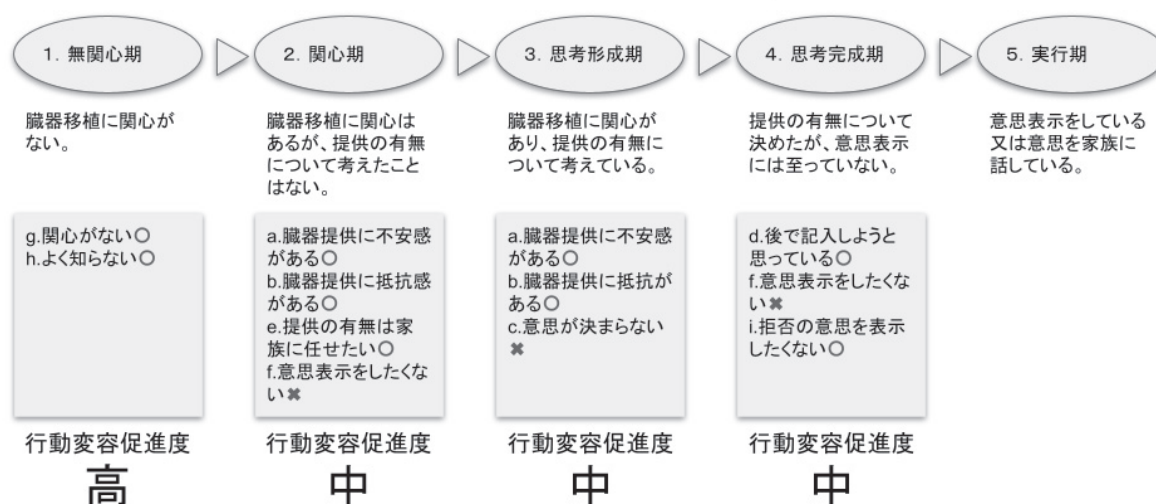


図18 啓発活動J(中学生向けパンフレットの作成、配布)のステージごとの行動変容促進度

²¹ 20に同じ

- K. 学校に講師を派遣する出前授業
aからi全て「×」
授業を受けられる人数が限られるので、幅広い啓発とは言い難い。
よって行動変容促進度は、全てのステージにおいて「低」。
- L. 小学生から社会人までを対象としたJOTへの訪問学習
aからi全て「×」
授業を受けられる人数が限られるので、幅広い啓発とは言い難い。
よって行動変容促進度は、全てのステージにおいて「低」。

以上が、現状の臓器移植啓発活動に対する評価と、ステージごとの行動変容促進度である。
最後に、求めた行動変容促進度を、図11の分析グラフにあてはめる。なお、分析グラフでは、aからi 全て「×」になったものは、啓発としてほとんど機能していないということから、区別するために小さく示してある。



図19 臓器移植啓発活動の分析グラフ

図19を見ると、思考形成期の行動変容促進度「高」が1つもないことが分かる。よって、現状の臓器移植啓発活動の問題点は、思考形成期において、行動変容を促すような啓発を行っていない点といえる。

IV 臓器移植啓発活動の問題点のナッジを用いた考察

(1) 臓器移植啓発活動におけるナッジの活用

前章では、臓器移植啓発活動の問題点として、思考形成期において、行動変容促進度の高い啓発が行っていないことを指摘した。本章では、その理由をナッジの観点から考察していく。

ナッジとは、II章で述べた通り、行動科学の知見を活用した、人々が自分自身にとってより良い選択を自発的に取れるように手助けする政策手法のことである。行動変容を促すことを目標とした啓発は、ナッジを活用した啓発が望ましい。言い換えると、行動変容促進度の高い啓発は、ナッジを活用できているのではないかという仮説が立てられる。そこで、行動変容促進度「高」の啓発活動をナッジの観点から考察する。

例として、Dの鉄道駅等公共の場へのポスター掲示を考察する。

無関心期においてこの啓発は、ナッジの構成要素²²のうち「Attractive」を満たしている。2017年に東京メトロの駅で掲示されたポスター²³は、伝えたいことを文字で説明するのではなく、大きなイラストで説明することによって、強い印象を与えていた。

関心期では、ナッジの構成要素のうち「Social」を満たしている。2016年に東京メトロの駅で掲示されたポスター²⁴は、「既にたくさんの人が臓器提供の意思を表示しています。」と表記することにより、「他の人も意思表示をしているのだから自分もしなければ」というような同調を誘っていた。

思考完成期では、ナッジの構成要素のうち「Attractive」を満たしている。今年10月に東京メトロの駅で掲示されたポスター²⁵は、「臓器の提供が少なく毎週8人のいのちが失われているそうだよ。」と表記することにより、臓器提供意思表示をしないことによる損失を示していた。

このことから、行動変容促進度の高い啓発は、ナッジを活用した啓発であるといえる。

(2) ナッジの観点から見た思考形成期の特徴と問題点

前章では、思考形成期のみ、行動変容促進度の高い啓発が行えていないことを指摘した。その理由として、意思決定に特化した啓発がなかったということもあり得る。しかし、他の項目に対する啓発は全て行われているのに、偶然意思決定に対する啓発は行われていなかったということは考えづらい。思考形成期における効果的な啓発が行えていないということは、ナッジを用いた啓発を行えていないということである。ナッジを用いた啓発が行える他のステージと、行えないこのステージとの違いは何か。それを導くために、ナッジを用いた取り組みの特徴を見ていく。

2021年度の「ベストナッジ賞」を受賞した三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社の取り組みでは、ナッジを用いたチラシによって、口座振替の申し込み率が高まるかどうかを検証した²⁶。口座振替納付案内に「簡素化・明確化」「損失メッセージ」「期限の明示」「所有者コードの同封」の4種類のナッジを用いたチラシを同封することにより、「申し込む」という選択肢を促していた。

また、同年度同じ賞を受賞したつくばナッジ勉強会の取り組みでは、避難行動要支援者の同意書の返信率向上を目指し、ナッジを組み込んだメッセージの効果を測定した²⁷。「動作指示の明確化」「パーソナライズ」「利得の強調」の3種類のナッジを組み込んだメッセージにより、「返信する」という選択肢を促していた。

このナッジを用いた2つの取り組みに共通する点として、行動変容を促す選択先が1つであるという点が挙げられる。つまり、ナッジを用いた選択の促進とは、望ましい1つの選択肢に誘導するという点である。

思考形成期以外のステージも、ナッジによって行動変容を促す選択先が1つである。無関心期であれば、「関心を持つ」「持たない」の選択肢がある中で、目標は関心を持たせることである。関心期であれば、「臓器提供について考える」「考えない」の選択肢がある中で、目標は考えると

²² Behavioural Insights Team(BIT) (2014)EAST: Four Simple Ways to Apply Behavioural Insights <https://www.bi.team/publications/east-four-simple-ways-to-apply-behavioural-insights/> 2022年11月12日閲覧

「EAST」は、イギリスのBITという組織が発表した、ナッジを実際に用いるためのフレームワークである。このフレームワークは厚生労働省の受診率向上ハンドブックでも用いられており、「EAST」の要件を満たすことによって、ナッジ理論に基づいた奨励が行えるとされる。Eはeasyの頭文字であり、デフォルトの活用や、メッセージの簡素化をすることで達成できる。Aはattractiveの頭文字であり、報酬、損失の提示や、メッセージでの画像や色の使用によって達成できる。Sはsocialの頭文字であり、社会規範の提示や周囲の人間を活用することによって達成できる。Tはtimelyの頭文字であり、受容的な時期に奨励を行うことによって達成できる。本論では、ナッジを用いた啓発であるかを、この「EAST」の要件を満たしているかどうかで判断する。

²³ 日本臓器移植ネットワーク (2017)「東京メトロの駅へのポスター掲出について」
<https://www.jotnw.or.jp/news/detail.php?id=1-100> 2022年11月12日閲覧

²⁴ 日本臓器移植ネットワーク (2016)「東京メトロ全駅に「数字でわかる、臓器提供」ポスターが掲示されています！」
<https://www.jotnw.or.jp/news/detail.php?id=1-68&place=news> 2022年11月12日閲覧

²⁵ 日本臓器移植ネットワーク (2022)「東京メトロの駅へのポスター掲出について」
<https://www.jotnw.or.jp/news/detail.php?id=1-904&place=top> 2022年11月12日閲覧

²⁶ 環境省 (2022)「「ベストナッジ賞」コンテストの結果について」
<https://www.env.go.jp/press/110544.html> 2022年9月25日閲覧

²⁷ 26に同じ

いう意思を持たせることである。思考完成期であれば、「意思を表示する」「しない」の選択肢がある中で、目標は表示させることである。このように、行動変容を促す選択先がいずれも1つである。そのため、ナッジを用いた啓発が行いやすい。

対して思考形成期は、行動変容を促す先が2つある。意思を決定するということは、提供するかしないかを選ぶということである。臓器提供の意思表示は人の権利であるため、臓器移植啓発活動では、臓器提供を「する」という選択のみを促してはいけない。つまり、促す選択先を1つに限定できないのである。このことから、思考形成期において行動変容促進度の高い啓発が行えていないのは、行動変容を促す選択先が2つあるという点に原因があることが分かる。

V 今後の臓器移植啓発活動

行動変容ステージモデルを用いて現状の啓発活動を分析し、ナッジの観点から問題点を考察した。その分析、考察により、臓器移植啓発活動の問題点は、意思決定の段階において、行動変容を促す選択先が2つあるという点であることが分かった。選択先を1つに限定できない中で、意思決定の段階における行動変容を促す啓発手法を検討することが、臓器移植啓発活動における直近の課題である。

また考察の過程で、ナッジを用いた啓発の有効性についても確かめることができた。現在の啓発活動は、臓器提供意思表示の重要性を説くものが多い。しかしそれだけでは、意思決定という重い選択をしようとするきっかけとしては不十分である。ナッジという観点をを用いて新しい啓発手法を検討することも、臓器提供意思表示の数を増やす取り組みとして、十分価値のあることだと考えられる。

臓器提供意思表示は、移植を待っている人を救うためだけのものではない。重い選択を迫られる自分の家族のためのものである。臓器移植に関わることになる全ての人が最善の選択をし、後悔をしないためにも、臓器移植啓発活動は精力的に行っていかなければならない。

(11596文字 原稿用紙29.0枚相当)

【参考文献及び関連URL】

- リチャード・セイラー、キャス・サンスティーン/遠藤真美訳(2009)『実践行動経済学』日経BP社
- 小松楠緒子 (2005) 「臓器非提供の構造—都内某大学の調査から—」文教大学総合研究所『文京学院大学外国語学部文京学院短期大学紀要』(第4号)
- 環境省 (2019) 「日本版ナッジ・ユニットBEST」
<https://www.env.go.jp/earth/ondanka/nudge.html>
- 環境省 (2022) 「「ベストナッジ賞」コンテストの結果について」
<https://www.env.go.jp/press/110544.html>
- 厚生労働省 (2019) 「行動変容ステージモデル」
<https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/exercise/s-07-001.html>
- 厚生労働省 (2021) 「第60回厚生科学審議会疾病対策部会臓器移植委員会 資料」
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_24313.html
- 内閣府 (2021) 「1.臓器移植・臓器提供への関心について」
<https://survey.gov-online.go.jp/r03/r03-ishoku/2-1.html>
- 内閣府 (2021) 「3.臓器提供に対する意識について」
<https://survey.gov-online.go.jp/r03/r03-ishoku/2-3.html>
- 内閣府 (2021) 「図5 臓器提供の意思表示をしない理由」
<https://survey.gov-online.go.jp/r03/r03-ishoku/zh/z05.html>
- 日本臓器移植ネットワーク (2015) 「東京メトロ全駅に意思表示促進のポスターが掲示されています！」
<https://www.jotnw.or.jp/news/detail.php?id=1-20>
- 日本臓器移植ネットワーク (2016) 「東京メトロ全駅に「数字でわかる、臓器提供」ポスターが掲示されています！」
<https://www.jotnw.or.jp/news/detail.php?id=1-68&place=news>
- 日本臓器移植ネットワーク (2017) 「東京メトロの駅へのポスター掲出について」
<https://www.jotnw.or.jp/news/detail.php?id=1-100>
- 日本臓器移植ネットワーク (2021) 「映像ライブラリー」
<https://www.jotnw.or.jp/learn/library/gallery/>
- 日本臓器移植ネットワーク (2021) 「『臓器提供をされた方のご家族に対する調査』の集計結果について(最終集計結果)」
<https://www.jotnw.or.jp/news/detail.php?id=1-781&place=top>
- 日本臓器移植ネットワーク (2022) 「東京メトロの駅へのポスター掲示について」
<https://www.jotnw.or.jp/news/detail.php?id=1-904&place=top>
- 日本臓器移植ネットワーク 「教育への取り組み」
<https://www.jotnw.or.jp/forteacher/teacher/>
- 日本臓器移植ネットワーク 「臓器提供意思表示カード付リーフレット」
<https://www.jotnw.or.jp/goods/detail.php?id=200>
- 日本臓器移植ネットワーク 「臓器提供意思表示説明用リーフレット」
<https://www.jotnw.or.jp/goods/detail.php?id=228>
- 日本臓器移植ネットワーク 「臓器提供意思表示説明用リーフレット(運転免許証用)」
<https://www.jotnw.or.jp/goods/detail.php?id=231>
- 日本臓器移植ネットワーク 「私も、します。臓器提供の意思表示。」
<https://www.jotnw.or.jp/goods/detail.php?id=237>
- 日本臓器移植ネットワーク 「私も、します。免許証の裏面に意思表示。」
<https://www.jotnw.or.jp/goods/detail.php?id=232>
- ACジャパン (2013) 「わたしはしてるよ」
<https://www.ad-c.or.jp/campaign/search/index.php?id=649&keyword>
- ACジャパン (2014) 「私のヒーローは、ここにいます。」
<https://www.ad-c.or.jp/campaign/search/index.php?id=682&keyword>
- ACジャパン (2019) 「最後の手紙」
<https://www.ad-c.or.jp/campaign/search/index.php?id=797&keyword>
- Behavioural Insights Team(BIT) (2014)*EAST: Four Simple Ways to Apply Behavioural Insights* <https://www.bi.team/publications/east-four-simple-ways-to-apply-behavioural-insights/>
- Facebook 「公益社団法人 日本臓器移植ネットワーク」 <https://www.facebook.com/JapanOrganTransplantNetwork/>
- YouTube (2015) 「臓器提供意思表示促進CM[15秒]」
<https://www.youtube.com/watch?v=zALOF0XRxRM>

- YouTube (2021)「【運転免許証】「私も、します。」免許証の裏面で臓器提供の意思表示」
<https://www.youtube.com/watch?v=ScUIrgM134E>
- YouTube 「公益社団法人 日本臓器移植ネットワークJapan OrganTransplant Network」
<https://www.youtube.com/user/JOTNW/playlists>